

# まちづくりを

十二月定例議会では、防災について四人の議員から一般質問があり、さまざまな角度から町長の考えをいただきました。

## 災害に強い町づくり

**Q** 災害はいつ、どこで起きるか分らない。安全で住みやすい町を目指していくべきであると考えるがどうか。

**A** 町として全力をあげて災害に対応するよう努める。しかし、大規模な災害には、行政だけでなくすべてに対応しきれない状況になることは、新潟や阪神の大地震でも明らかである。今後、地域住民の自主防災力を高め、協力して災害に対応する。

## 災害時への対応

**Q** ボランティアとの連携や市町村間の災害相互援助

協定はどうか。

**A** ボランティアとの連携は町および海田町社会福祉協議会ボランティアセンターにおいてボランティア



土のうをつくるのも大変じゃのう

の受付や活動について対応する。また、市町村間に関しては、県内全市町および広島県と災害応援協定を結んでいる。

**Q** 学校現場での、通常の避難訓練では想定していない事態への対応はどうか。  
**A** 児童生徒の管理が難しい休憩・清掃時間や登下校中など、あらゆる事態を想定し、訓練・指導を行っている。

## 自主防災

**Q** 自主防災組織が結成されていない自治会への対応はどうか。

# 安全で住み良い



うまく消せるかな

**A** 会長を通して早期結成を働きかける。今年から実施している小学校校区ごとの防災訓練に未結成の自治会も参加していただき、意識の高揚と自主防災組織の重要性を理解いただいている。

**Q** 一人暮らしのお年寄りや障害者など援護を必要とされる方への対策はどうか。  
**A** 自治会、自主防災組織や民生委員の協力で、災害

要援護者を把握し、地域全体で情報伝達、避難誘導や救助などの体制を構築していくことが必要と考える。

## 避難マニュアル

**Q** 災害時の避難勧告が遅れたり聞こえなかったりすることで被害が拡大しないよう、避難の勧告や指示を出す際のマニュアルは万全か。

**A** 気象情報や県からの防災情報および町職員などによる町内パトロール情報により判断し、防災無線や広報車の巡回、また、町職員や消防団員が直接住宅を訪問し、避難が早くできるよう定めている。全世帯に配布した防災マップ



もう読まれましたか

などを活用して、マニュアルに沿った行動ができるよう、訓練や体制づくりに努める。

## 避難の経路と場所

**Q** 避難の経路や場所を再点検し、自治会単位に整備してはどうか。

**A** 防災マップに従って避難の経路や場所は、被害状況に応じて住民が把握することが重要である。

自主防災組織による訓練や自治会での活動の中で災害に応じた避難場所や避難

経路の確認・点検を実施してもらおうようにする。現状では、指定の避難場所を利用してもらいたい。

## 防災マップ

**Q** 防災マップに記載されている避難場所や土砂災害危険区域の点検は。

**A** 避難場所の耐震調査が必要な施設は五カ所、財政状況を見ながら、順次実施する。

土砂災害危険区域は、県と合同で毎年梅雨前に実施している。